

2022年度・自己点検及び評価報告書

当日本語教育機関が法務省告示基準に沿って実施した 2022年度の「自己点検及び評価」は以下の通りです。

実施日:2022年 8 月23日

アイザック東京国際アカデミー

I. 点検評価項目ごとの確認・評価

【評価の目安】

A:十分に達成されている B:達成されている C:達成に向けて努力している D:達成されていない

点検・評価項目		評価
1. 理念・教育目標		
1.1	教育理念、目的、目標、育成する人物像が明確になっている。	A
1.2	教育理念、目的、目標、育成する人物像が社会のニーズに合致している。	A
1.3	理念、目標を体現した生徒を現実に輩出できている。	C
1.4	教育の理念がすべての教職員に共有されている。	B

まとめ

この数年間、新型コロナの影響で留学ビザ学生の入国が遅れ、授業の開始時期が遅れたことにより、卒業生輩出も少数で、目標が達成されているとは言えない。

記載者: 緑川

2. 学校運営		
2.1	学校の運営体制が日本語教育機関の告示基準を満たしている。	B
2.2	理念や目的に沿った運営方針や事業計画が策定されている。	C
2.3	校長、主任教員による、教員、事務職員の統括ができている。	A
2.4	個人情報の管理状況と、教職員への適切な取扱い方法の周知が徹底されている。	A
2.5	教職員の勤務時間管理を適正に行っている。	C
2.6	職員ミーティングを定期的に行っている。	B

まとめ

新型コロナによる入国制限と緩和により、業務量に変化があり、教職員の勤務時間管理については、必ずしも理想的とは言えない。

記載者: 緑川

3. 学習指導・カリキュラム		
3.1	教育目標に沿ったカリキュラムになっている。	A
3.2	カリキュラムの基本方針について、教職員間の共通理解ができている。	A
3.3	カリキュラムの進行状況について、教職員間の共通理解ができている。	A
3.4	期間ごとの各課程の到達目標が達成できている。	A
3.5	授業の進行に問題が生じている場合は、問題解決に至るまでのプロセスを重視した現実的な解決策が用意できている。	A
3.6	カリキュラムの改善が定期的に話し合われている。	A

3.7	学生の出席を確実に把握している。	A
3.8	授業時の説明、板書、発問といった授業の実施方法が適切かつ効率的である。	A
3.9	視聴覚教材や教育機器などの教材・教具が活用されている。	A
3.10	生活体験を生かした学習、学生の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習など、学生の主観面へのアプローチをとりいれた授業運営ができています。	B
3.11	「個の学習」と「クラスでの学習」のバランスが取れている。	B
3.12	学生のサイン・シグナルを読み取りながらの授業展開・クラス運営ができています。	A
3.13	学生への授業アンケートが定期的に実施されている。	A
3.14	カウンセリングや教育相談体制が整備されている。	B
3.15	学生の満足度の把握をしている。	B

まとめ

クラス全体での学習や学生の興味関心を伸ばす学習については、感染対策により実施可能な内容に制限があるため見送らざるを得ない場合がある。学生アンケートは半年に一回実施しているが、より短い期間での満足度の把握や相談は必要があり次第都度となっている。

記載者:若菜

4. 学修成果		
4.1	成績評価、進級、修了の判定基準が明確になっている。	A
4.2	テストは確実に実施されている。	A

まとめ

クラス毎に使用している漢字教材の試験を約 2 週に 1 回、総合教科書の試験を期に 2 回、別途 4 技能別の試験を期末に 1 回実施し、各得点をレベル毎の基準で段階評価に換算している。

記載者:若菜

5. 進路指導		
5.1	最新の進学情報を提供している。	A
5.2	進路相談の手順、方法が明確になっている。	A
5.3	進路指導が十分に行き届いている。	B
5.4	学力と進学希望先をふまえた上での進路指導が実施されている。	A
5.5	進路指導を行う上での個人資料や進路情報の収集・管理状況が適切かつ十分である。	A
5.6	学校として組織的に進路指導に取り組む体制ができています。	B
5.7	地域の教育機関、進学先との連携・協力ができています。	A

まとめ

各学生に進学相談担当者を設定し、希望の聞き取りから入学手続きまでを一貫して指導する。進捗状況は電子的に記録し他の職員も閲覧できる状態になっている他、進学担当者間で随時連絡しあっている。現時点で専任教員 2 名のみで当たっているため、1 年目の学生の志望調査を早期に行う等の対応はやや不足している。

記載者: 若菜

6. 生活指導		
---------	--	--

6.1	母国と日本の文化の違いに対する、適切な指導・アドバイスができています。	A
6.2	アルバイト状況について、学生からのヒアリングと情報管理が適切に行われている。	A
6.3	アルバイトに関する問題が生じていない。	B
6.4	地域社会・アルバイト紹介業者等との連携体制に問題がない。	A
6.5	出席状況の管理とフォロー体制が適切である。	B
6.6	母国の文化を尊重しつつ、日本の文化を受け入れ、日本社会の一員としての日本での成長、人格形成につながる指導やアドバイスが行えている。	B
6.7	体験活動、行事などの実施・管理体制ができています。	B

まとめ

学生の出席状況を適切に管理し、生活ガイダンスや警察の生活安全講話を実施し、不祥事が起こらないように努めている。資格外活動を定期的に調査し、地域のアルバイト先や紹介業者と連携し、違反がないように努めている。学生の日本文化理解のため、定期的に体験学習などを行っているが、コロナ禍により、十分にできているとは言えない。

記載者：ロイ

7. 保健管理		
7.1	対象となる学生全員が国民健康保険に加入している。	A
7.2	学生の薬物乱用防止、心のケア等を含んだ指導体制が取れている。	B
7.3	健康診断の予定と実施状況、さらに、診断結果において問題があった学生への対策をとっている。	A
7.4	学校の衛生管理を行っている。	A

まとめ

学生全員の国民保険加入を確認し、学校が団体保険・責任賠償保険に加入している。年に1回、健康診断を実施し、コロナ対策の消毒や空気清浄、検温等も行い、衛生管理に気を付けている。

記載者：ロイ

8. 安全管理		
8.1	危機管理マニュアル等の作成及び内容の周知が行われている。	B
8.2	気象警報発令時の措置、災害発生時の避難方法を定め、教職員及び学生に周知している。	B
8.3	施設、設備の定期的な安全点検が行われている。	A

まとめ

学生が安心して勉強できるように、施設や設備などを定期的に確認している。また、最新の気象情報を入手し、地震等の緊急時に、学生全員に連絡できる態勢作りに努めている。

記載者：ロイ

9. 教職員研修		
9.1	教職員の教育力及び指導力強化のための研修等を実施すると共に、他機関が実施する研修会等への参加を促している。	B

まとめ

校内的には、教師および職員のための学習会等を実施しているが、新型コロナウイルスの影響により、他機関による研

修会が開催されていないので、参加機会が乏しい。

記載者：緑川

10. 入学者の募集

10.1	入学者の募集活動が告示基準に沿って適切に行われている。	A
10.2	学校情報が正確に伝えられている。	A
10.3	入学者の募集について、今後の見通しが安定している。	B
10.4	授業料の請求、支払い、返金等が学則に沿って行われている。	A

まとめ

告示基準に沿って学校情報の提供と募集活動を仲介機関や入学者に適切に行っている。

記載者：ロイ

11. 財務

11.1	中長期的に学校の財務基盤が安定している。	C
11.2	設置母体と学校の経営が、明確に区分されている。	C
11.3	財務について会計監査が適切に行われている。	B
11.4	予算・収支計画が有効かつ妥当なものとなっている。	C

まとめ

当校は本年4月以降に約70名の入学者を迎えたが、新型コロナの影響を克服し切れたとは言えず、安定化に向けて業務を継続している。

記載者：緑川

12. 学校情報の公開

12.1	ホームページ等で学校情報を適正に公表している。	A
12.2	法令上、または社会通念上、適切な情報を公開している。	A
12.3	入学希望者や現地の教育機関などへ、適切な学校情報を提供している。	A

まとめ

告示基準に基づき、必要情報を適正に日本語、英語、ベトナム語でホームページに公開している。また、スカイプやメールなどの手段を用いて募集要項等を仲介機関に送っている。

記載者：ロイ

13. 教育環境整備

13.1	学校運営に必要な設備等を備えている。	B
13.2	教育機器、教材、教具、図書が十分に整っている。	B

まとめ

告示基準に定められた教室等の施設は備わっている。また、機器及び当面の教材、教具に不足はない。図書については、クラスが増加したことで、各レベルに対応したものを増やした。

記載者：後藤

14. 法令遵守

14.1	法令順守に関する担当者を特定している。	C
14.2	教職員のコンプライアンス意識を高めるための取り組みを行っている。	C

14.3	個人情報保護のための対策が取られている。	B
14.4	入国管理局、関係官庁等への届出、報告を遅滞なく行っている。	B

まとめ

事務的な面は事務担当者が、教務的な面は教務担当者が責任を持って行う体制を取っている。迅速な届出と報告に努めているが、コロナ禍の影響による遅滞も生じている。 記載者: 緑川

15. 地域貢献・社会貢献		
15.1	日本語学校について地域住民の方々に理解を促す働きかけができています。	C
15.2	近隣のごみ拾い等のボランティア活動への参加や地域貢献ができています。	C
15.3	地域の文化施設や自然、伝統行事等を学生指導に取り込み、活用ができています。	C
15.4	地域住民との交流を行い、地域住民からの意見や要望等を把握し、またその意見や要望に応えられたかどうか、公表する仕組みがある。	C

まとめ

新型コロナの影響で、地域住民との交流や地域社会との関わりがなかなか実現できない。今後は地域の交流活動などに参加するよう努力していきたい。 記載者: 後藤

II. 総合評価と改善計画

総合評価
<p>【達成状況】 世界的な新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度までは学生の入学に影響があった。だが、今年度は多数の入学があり、事務も教務も、コロナ対策を行いつつ、業務を軌道に乗せている。現時点で、学生募集、在籍管理、生活指導、学習指導面で問題は起きていないが、告示基準に沿う形で、更なる発展を目指したい。</p> <p>【課題・改善計画等】 告示校としての適正な運営、学生の満足度アップ、進学実績の積み上げに向け、努力していきたい。</p> <p style="text-align: right;">以上 アイザック東京国際アカデミー校長 緑川</p>